

種子の発芽状況を確認する鈴木理事長(左)ら。下多賀



休眠状態の種子活用

「熱海の森」で再生プロジェクト

東京都の認定NPO法人環境リレーションズ研究所(鈴木敦子理事長)とエコビジネス支援などに取り組む環境ビジネスエージェンシー(同社)は、熱海市下多賀で、荒廃した森林の土壌に眠る植物の種子を活用し、都市の緑化と里山再生を目指す「アーバン・シード・バンク・プロジェクト」に取り組んでいる。目の目を見ることがなかった植物を生かすことを目指す。

れ、目を浴びることができず休眠状態にあるコナラやヒイラギなど、在来植物の種子を下多賀のほ場に移植し、ある程度育ててから緑化事業に利用する。種子の中には、50年近く土中で眠っていたものもあるという。

鈴木理事長は「土に

下多賀のほ場で育成

未利用資源をビジネスに

同NPOは、下多賀の生物多様性を都市部の「プレゼントツリー」で再生させ、事業の利益を還元することで里山の再生も図る。未利用資源のまま無駄にせず、有効に活用したい」と話した。

東京の環境団体

われつある放置里山